

Node-REDのノード開発ハンズオン

2019/04/22 日立製作所 中央研究所

横井 一仁

ハンズオン用の環境準備



ハンズオン開始前に以下のソフトウェアをインストールしておいてください。

- Node.js v10.x LTS (https://nodejs.org/ja/download)
- Node-RED v0.20.x コマンドプロンプト上で「npm install -g node-red」を実行
- Node generator v0.0.4
 コマンドプロンプト上で「npm install -g node-red-nodegen」を実行
- Windows-Build-Tools (Windowsの場合)
 管理者モードでコマンドプロンプトを起動し、
 「npm install -g --production windows-build-tools」を実行
- Xcode (macOSの場合)
- node-red-contrib-web-worldmap、node-red-contrib-browser-utilsノード
 Node-REDフローエディタのメニュー ->「パレットの管理」からインストール
- テキストエディタ(Visual Studio Codeなど)

下記リポジトリにあるハンズオン説明スライドも開いておいてください。 https://github.com/kazuhitoyokoi/nodegen-handson



コンテンツ

- Node generatorの説明
- ハンズオン1: Open APIドキュメントからオリジナルノードを作成
- ハンズオン2: functionノードからオリジナルノードを作成

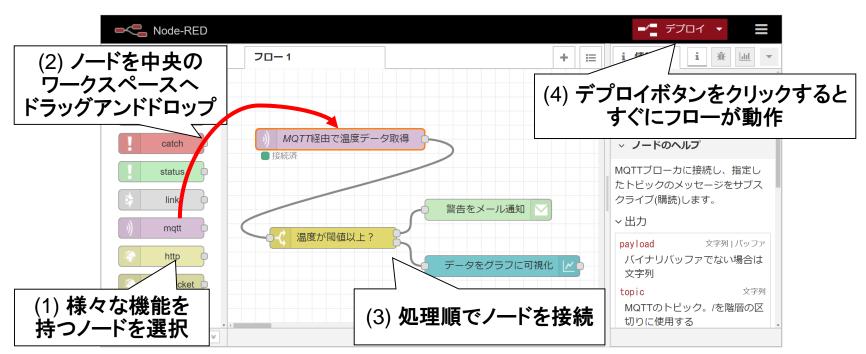


Node generatorの説明



loTアプリケーション向けのビジュアルプログラミングツール

- 迅速な開発を可能とするフローベースドプログラミング環境
- 新機能を追加できる様々なノード(部品)が存在
- Linux Foundation(JS Foundation)管理下のオープンソースソフトウェア



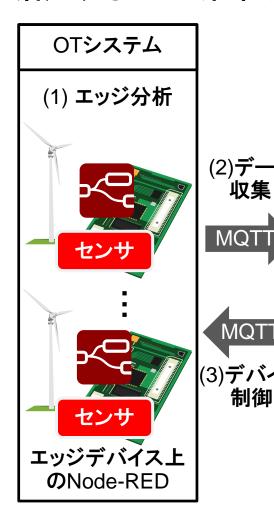
Node-REDフローエディタ

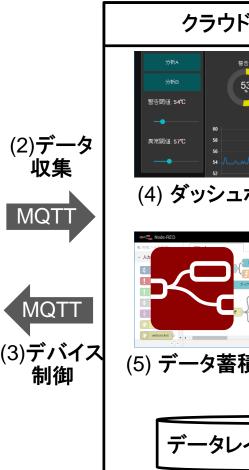
Node-REDで実現できること

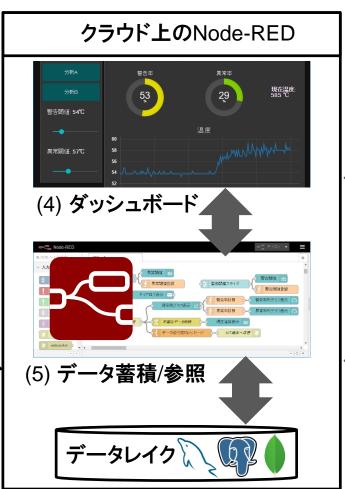
収集

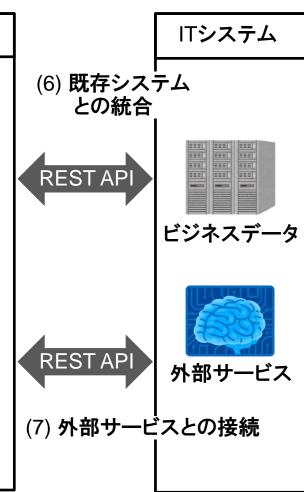


様々な外部システムやデバイス、ライブラリとつなぐノードを 活用することで素早くアプリケーションを開発できる。





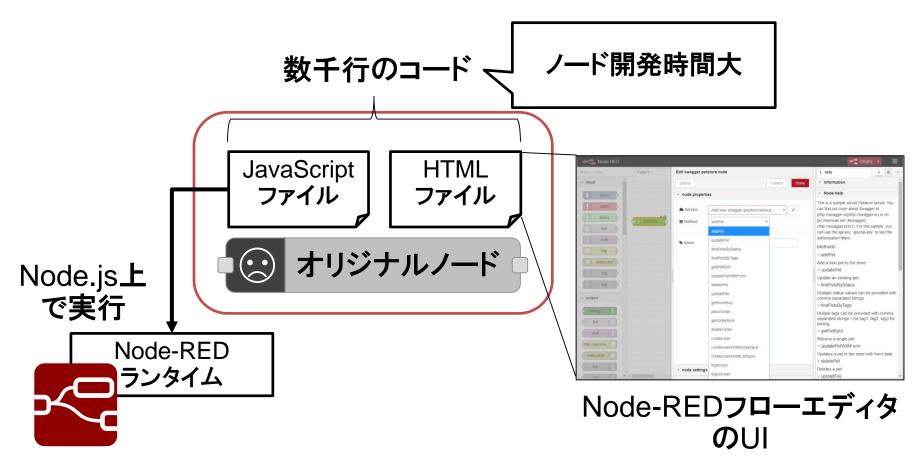




Node-RED案件の課題



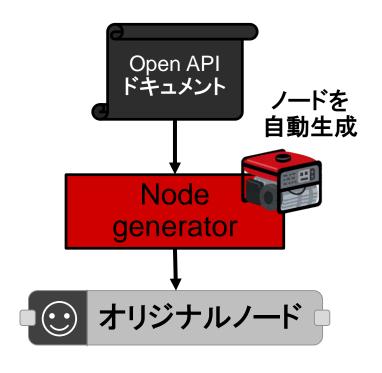
- 自社/他社サービスとの接続のため、オリジナルノードの開発が必要となることがある
- ・ 1個のノードは数千行のコード量であるため、ノード開発時間大



Node generatorによる解決



- Node generatorは、Open APIドキュメントや functionノードのソースコードから、ノードを自動生成できるツール
- Linux Foundation (JS Foundation) のオープンソースソフトウェア



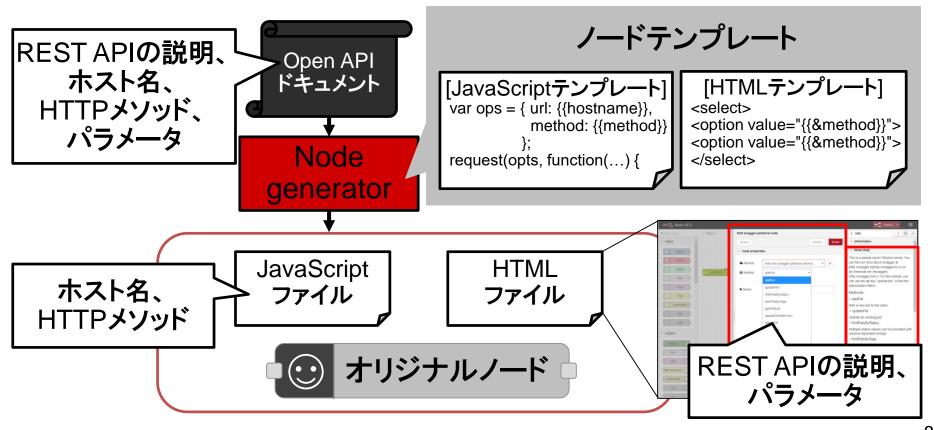


https://github.com/node-red/node-red-nodegen

Node generatorの仕組み(Open APIドキュメントの場合)



- Node generatorは、内部にてREST API固有の情報を除いた 共通のクライアントコードを持つノードテンプレートを保持
- Node generatorは、本ノードテンプレートに
 REST API固有の情報を挿入することでノードを生成



オリジナルノードのディレクトリ、ファイル構成



Node generatorは、以下のディレクトリ、ファイルを出力

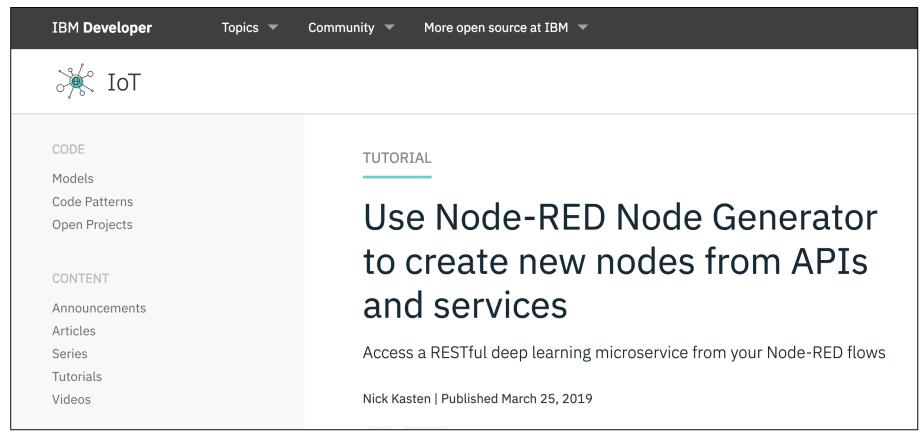


```
node-red-contrib-<ノード名>
├ node.js (サーバ側のNode.jsで動作するプログラム)
├ node.html (ノードの見た目、ノードプロパティUI、情報タブを記述)
⊢ locales
   ├ en-US ─ node.json (ノードプロパティUlの英語メッセージ)
   ├ ja ─ node.json (ノードプロパティUIの日本語メッセージ)
   ├ zh-CN ─ node.json (ノードプロパティUIの中国語メッセージ)
   └ de-DE ─ node.json (ノードプロパティUIのドイツ語メッセージ)
 - icons
  └ icon.png (ノードのアイコンファイル)
 - test
  └ node_spec.js (ノードのテストケース)
├ LICENSE (ライセンスファイル)
├ package.json (ノードのパッケージ情報)
└ README.md (ノードの使い方等のドキュメント)
```

Node generatorの活用事例



IBMが画像認識、音声認識、自然言語処理を行うDockerコンテナにアクセスするノードをNode generatorを用いて開発



Node generatorの紹介ページ

https://developer.ibm.com/tutorials/use-node-red-node-generator-to-create-new-nodes-from-apis-and-services/

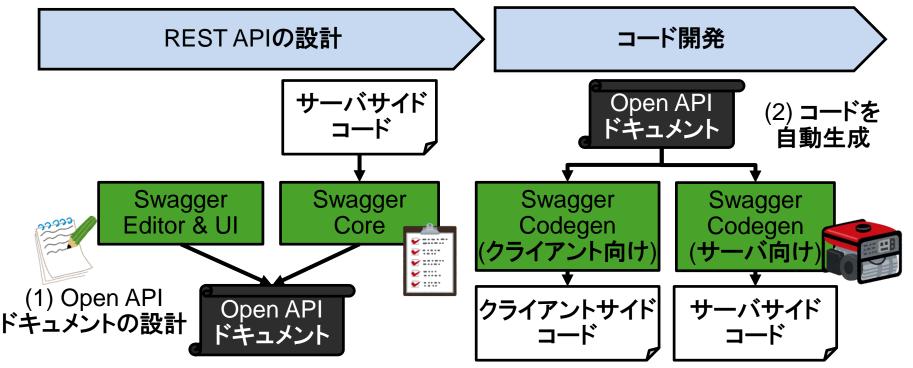


ハンズオン1: Open APIドキュメントから オリジナルノードを作成

Open APIとは



- REST API定義を記述する業界標準のフォーマット
- Open APIプロジェクトにより提供されているツール
 - Swagger Editor & UI: Open APIドキュメントを記述するためのエディタ、 REST APIドキュメントの自動生成
 - Swagger Core: サーバサイドのコードからOpen APIドキュメントを自動生成
 - Swagger Codegen: Open APIドキュメントからコードを自動生成



Open APIドキュメント



Open APIドキュメントには、REST APIのアクセス方法についての情報が記載されている。

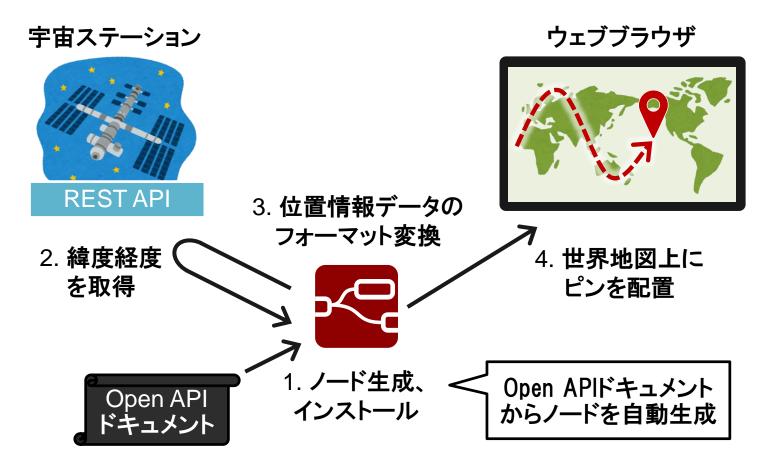
swagger: '2.0' info: REST API description: 'This is a sample server Petstore server.' の説明 version: 1.0.0 title: Swagger Petstore license: name: Apache 2.0 url: 'http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html' ホスト名 host: petstore.swagger.io basePath: /v2 HTTP paths: メソッド /store/inventory get: summary: Returns pet inventories by status description: Returns a map of status codes to quantities operationId getInventory produces - application/json パラメータ parameters responses '200' description successful operation

ハンズオン1の内容



宇宙ステーションを位置情報を取得するノードを作成

- (1) 位置情報取得APIのOpen APIドキュメントからノードを自動生成
- (2) 世界地図上に宇宙ステーションの位置を表示するフローを作成



Open APIドキュメントからノードを自動生成



(1-1) ハンズオンのリポジトリからOpen APIドキュメント(swagger.yaml)をホームディレクトリ(C:\Users\u00e4\u2224-世名>\u00e4)にダウンロード

```
swagger: '2.0'
info:
 description: The International Space Station location
 version: 4.5.1
 title: ISS Location
 license:
  name: Apache 2.0
  url: http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html
host: api.open-notify.org
basePath: /
schemes:
 - http
paths:
 /iss-now.json:
  get:
    summary: Current ISS location over Earth (latitude/longitude)
    description: This is a simple API to return the current location of the ISS.
    operationId: ISSLocationNow
    produces:

    application/json

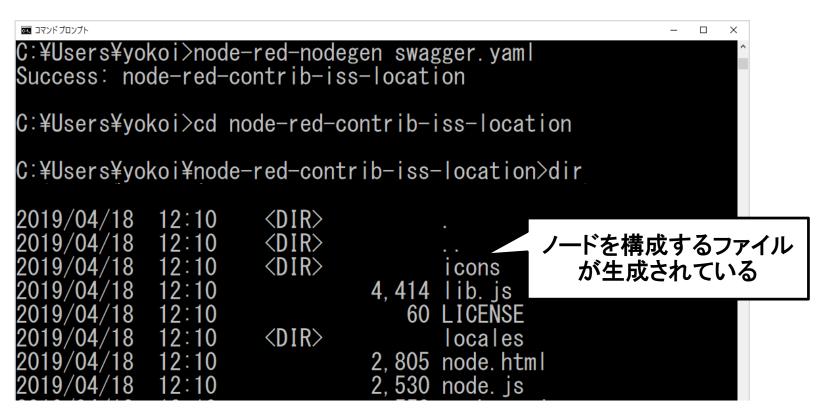
    responses:
     '200':
      description: successful operation
```

ダウンロードしたOpen APIドキュメントの内容

Open APIドキュメントからノードを自動生成



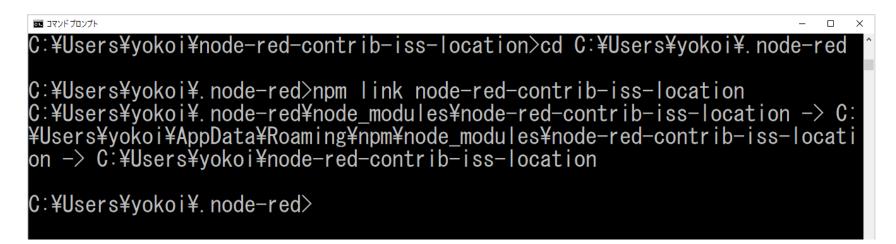
- (1-2) コマンドプロンプトでnode-red-nodegenコマンドを実行しノードを生成 > node-red-nodegen swagger.yaml
- (1-3) 生成したノードのディレクトリにディレクトリを変更
 - > cd node-red-contrib-iss-location



Open APIドキュメントからノードを自動生成



- (1-4) シンボリックリンク作成の準備 > npm link
- (1-5) Node-REDのホームディレクトリに移動 > cd C:\Users\u00e4<---ザ名>\u00e4.node-red
- (1-6) シンボリックリンクを作成
 - > npm link node-red-contrib-iss-location

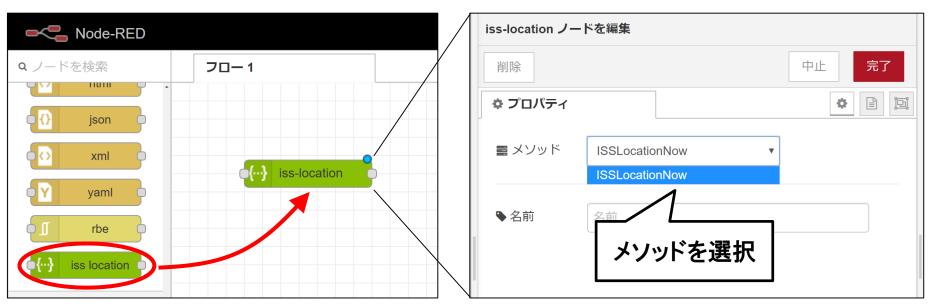




(2-1) Node-REDを起動(起動中の場合は再起動)

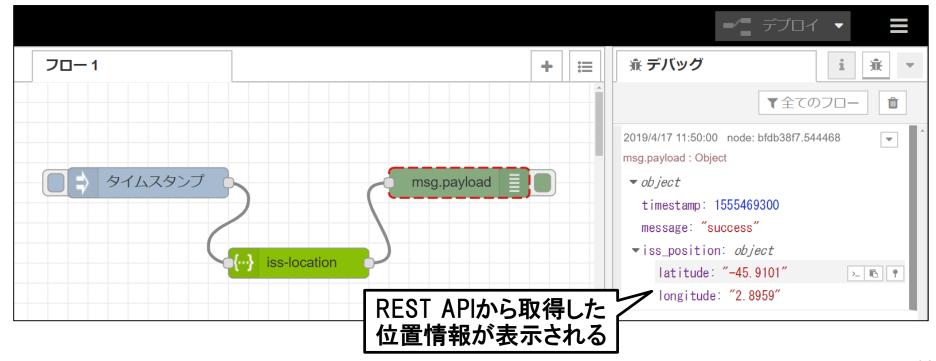
> node-red

- (2-2) Node-REDフローエディタにアクセス (http://localhost:1880)
 - -> 生成されたノードがNode-REDフローエディタのパレットに登場
- (2-3) 生成されたノードをワークスペースにドラッグアンドドロップし、 ノードプロパティUI上でメソッドを選択





- (2-4) injectノード、生成したノード、debugノードを順に接続したフローを作成し、デプロイボタンをクリック
- (2-5) injectノードのボタンをクリックして、フローを実行
 -> デバッグタブに宇宙ステーションの
 現在の緯度(latitude)、経度(longitude)が出力される





(2-6) injectノードのプロパティUIで以下の繰り返し処理を設定

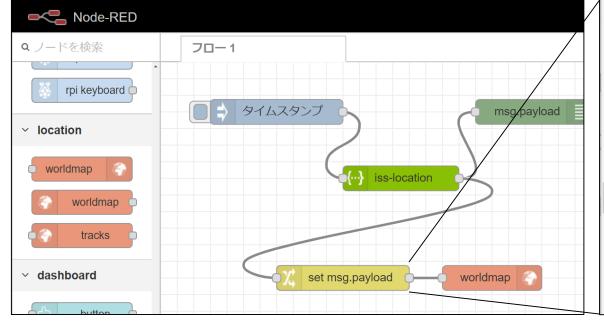
#	項目	設定値
1	繰り返し	指定した時間間隔
2	時間間隔	1秒





- (2-7) 生成したノードの後ろにchange、world mapノード(左側に端子)を接続
- (2-8) changeノードに変数の代入を設定し、デプロイボタンをクリック

#	プルダウンメニュー	1つ目の設定値	対象の値
1	値の代入	msg.payload.lat	msg.payload.iss_position.latitude
2	値の代入	msg.payload.lon	msg.payload.iss_position.longitude
3	値の代入	msg.payload.name	msg.payload.timestamp







(2-9) http://localhost:1880/worldmapを開くと、世界地図が表示され、 宇宙ステーションの位置を確認できる



補足: ノードのカテゴリ、色、アイコンを変更



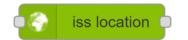
- ノードが所属するカテゴリを変更デフォルトの「機能」カテゴリ以外にノードを所属させる場合に指定する
 - 例)「分析」カテゴリを指定
 - > node-red-nodegen swagger.yaml -category analysis



- ノードの色を変更
 - --colorオプションに16進数で色を指定する
 - 例) ノードを白色に設定
 - > node-red-nodegen swagger.yaml --color FFFFFF



- ノードのアイコンを変更
 - --iconオプションにPNGファイルやNode-RED標準アイコン名を指定する
 - 例) 地球のアイコンを設定
 - > node-red-nodegen swagger.yaml --icon white-globe





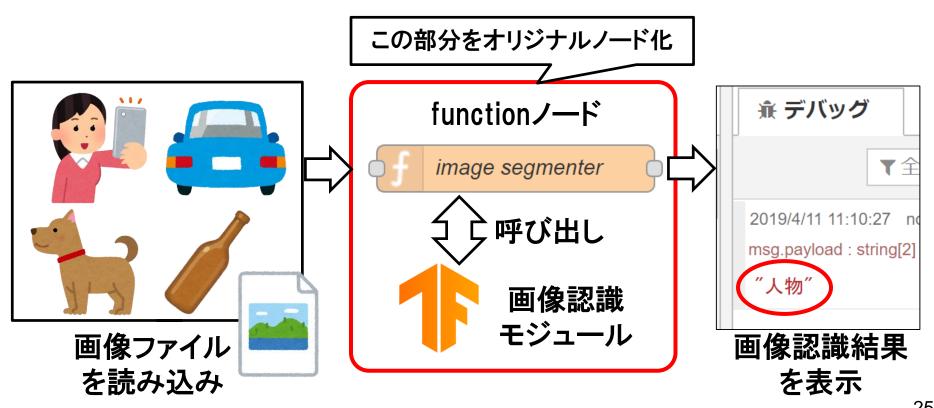
ハンズオン2: functionノードからオリジナルノードを作成

ハンズオン2の内容



画像認識モジュールと連携させたfunctionノードからオリジナルノード作成

- (1) functionノードで画像認識モジュールを利用するための設定
- (2) 画像認識モジュールを利用するfunctionノード、フローを作成
- (3) functionノードからオリジナルノードを自動生成



functionノードで画像認識モジュールを利用するための設定



- (1-1) テキストエディタでNode-REDの設定ファイル (C:\Users\u00e4<\u00e4—ザ名>\u00e4.node-red\u00e4settings.js)を開く
- (1-2) 216行目辺りのfunctionGlobalContextのブロック内に 以下の通り画像認識モジュールのrequire文を追加し、保存

```
functionGlobalContext: {
   imageSegmenter: require('@codait/max-image-segmenter')
}
```

```
ファイル(E) 編集(E) 選択(S) 表示(V) 移動(G) デバッグ(D) ターミナル(T) ヘルプ(H)
      JS settings.js •
                      global.get("os")
      215
                functionGlobalContext: {
      216
Q
                     imageSegmenter: require('@codait/max-image-segmenter')
      217
                    // os:require('os'),
      218
                    // jfive:require("johnny-five"),
      219
                    // j5board:require("johnny-five").Board({repl:false})
      220
      221
                },
                    global.keys()` returns a list of all properties set in global context.
      222
```

Visual Studio Codeのスクリーンショット

functionノードで画像認識モジュールを利用するための設定 Inspire the Next

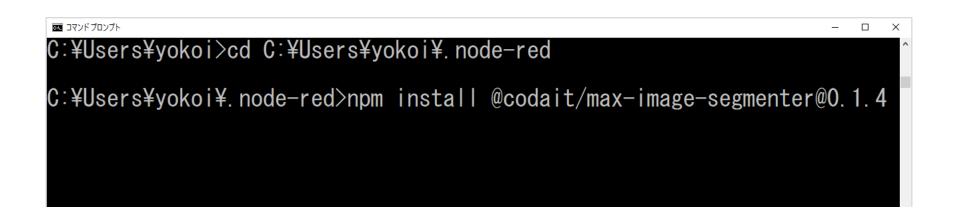


(1-3) コマンドプロンプト上でNode-REDのホームディレクトリに移動

> cd C:¥Users¥<ユーザ名>¥.node-red

(1-4) 画像認識モジュールのインストール

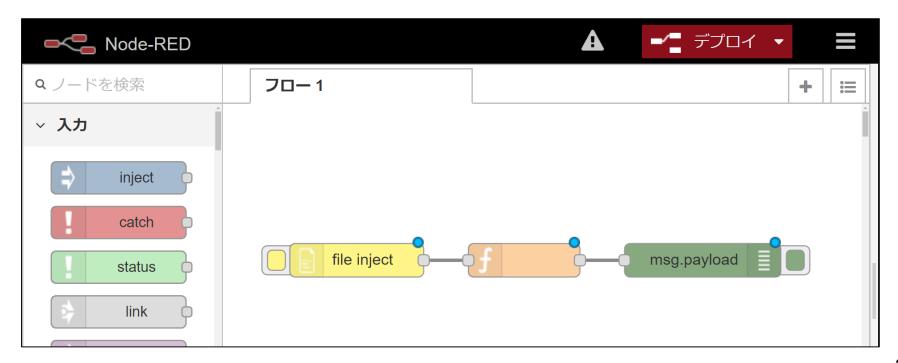
> npm install @codait/max-image-segmenter@0.1.4



※参考: サードパーティモジュールの利用手順 https://nodered.jp/docs/writing-functions

画像認識モジュールを利用するfunctionノード、フローを作成Inspire the Next

- (2-1) Node-REDを再起動(node-redコマンドをCtrl+cで終了後、再実行) > node-red
- (2-2) Node-REDフローエディタ(http://localhost:1880)へ ブラウザからアクセス
- (2-3) file-inject、function、debugノードを順に接続し、フロー作成



画像認識モジュールを利用するfunctionノード、フローを作成 HITACHI

(2-4) functionノードのプロパティUIIに名前、JavaScriptコードを入力

#	項目	設定値
1	名前	image segmenter
2	JavaScript コード	<pre>var imageSegmenter = global.get('imageSegmenter'); imageSegmenter.predict(msg.payload).then(function (response) { msg.payload = response.objectsDetected; node.send(msg); });</pre>

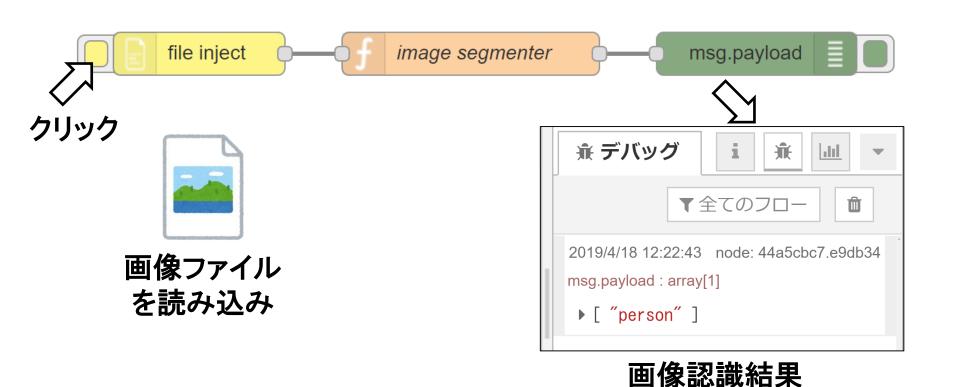
※ハンズオンのリポジトリにimage-segmenter.jsというファイル名でコードを置いてあります



functionノードのプロパティUIのスクリーンショット

画像認識モジュールを利用するfunctionノード、フローを作成 HITACHI

- (2-5) Node-REDフローエディタのデプロイボタンをクリックした後、 file-injectノードのボタンを押し、画像ファイルをアップロード
 - -> デバッグタブに画像認識結果が出力される





- (3-1) functionノードのノードプロパティ上にある「本」アイコンをクリックし、 「ライブラリへ保存」を選択
 - -> JavaScriptのソースコードが C:\Users\u00e4<\u00e4-red\u00e4lib\u00e4functions\u00e4へ保存される



(3-2) コマンドプロンプト上でCtrl+cを押し、Node-REDを終了



- (3-3) Node generatorを用いてfunctionノードからノードを自動生成
- > node-red-nodegen C:\Users\<ユーザ名>\Lambda.node-red\lib\functions\limage-segmenter.js
- -> Success: node-red-contrib-image-segmenterと表示されば成功
- (3-4) 生成したノードのディレクトリにカレントディレクトリを変更
- > cd node-red-contrib-lower-case

```
C:¥Users¥yokoi>node-red-nodegen C:¥Users¥yokoi¥.node-red¥lib¥functions¥image-segmenter.js
Success: node-red-contrib-image-segmenter
C:\Users\yokoi>cd node-red-contrib-image-segmenter
C:\Users\yokoi\node-red-contrib-image-segmenter>dir
ドライブ C のボリューム ラベルは Local Disk ですボリューム シリアル番号は 620B-B7A6 です
 C:¥Users¥yokoi¥node-red-contrib-image-segmenter のディレクトリ
2019/04/11
           11:38
                    <DIR>
                    <DIR>
                    <DIR>
                           11.767 LICENSE
                    <DIR>
                                  locales
                                                     ノードを構成するファイル
                            1.497 node.html
                           11, 276 node. js
                                                          が生成されている
                              451 package, ison
                              249 README, md
                    <DIR>
                                  test
```



- (3-5) シンボリックリンク作成の準備 > npm link
- (3-6) Node-REDのホームディレクトリに移動 > cd C:\(\frac{4}{2}\)Users\(\frac{4}{2}\)—ザ名>\(\frac{4}{2}\)Inode-red
- (3-7) シンボリックリンクを作成
 - > npm link node-red-contrib-image-segmenter

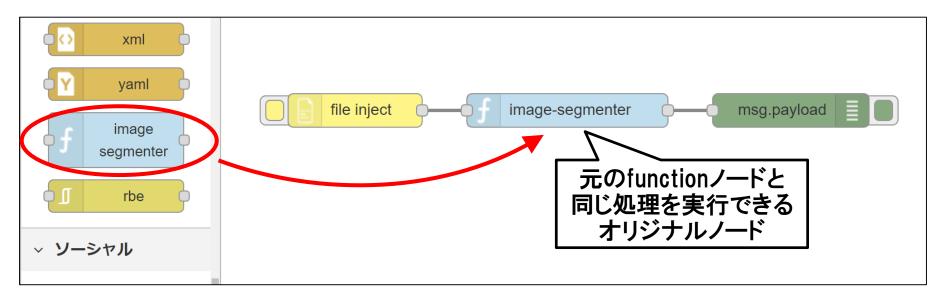
```
C:\forall Users\forall yokoi\forall node-red-contrib-image-segmenter\forall C:\forall Users\forall yokoi\forall node-red\forall node-red\foral
```



(3-8) Node-REDを起動

> node-red

- (3-9) Node-REDフローエディタにアクセス (http://localhost:1880)
 -> パレットの「機能」カテゴリの中にimage segmentatorノードが登場
- (3-10) 元のfunctionノードと置きかえ、同じ処理を実行できることを確認



補足: フローライブラリに公開する際に必要な修正



オリジナルノードをフローライブラリに公開する場合、 settings.jsの修正なくノードを使える様にするコードの修正が必要

ノードのJavaScriptファイル(node-red-contrib-image-segmenter¥node.js)に
 画像認識モジュールを読み込むコードを追加

パッケージ情報ファイル(node-red-contrib-image-segmenter\package.json)
 の依存関係ブロックに画像認識モジュールを記載

補足: フローライブラリにノードを登録する手順



- (1) Node generatorで「--keywords node-red」オプションでキーワードを指定してノード生成
- (2) 情報タブに表示するノードの使い方をHTMLファイル(node.html)に記載
- (3) ノードの概要やインストール方法のドキュメント(README.md)を記載
- (4) ノードのテストケース(test/node_spec.js)を追加
- (5) Travis設定ファイル(.travis.yml)を追加
- (6) packages.jsonにGitHubリポジトリのURLを追加
- (7) GitHubのリポジトリにノードを公開
- (8) Travis管理画面でリポジトリ連携の設定
- テスト実行 (9)npmにノードを公開 **GitHub** Travis 連携 -スコードを編集 公開 ノード生成 公開 自動反映 ノードを構成する ソース ファイル群 ファイル Node-REDフローエディタから インストールできるようになる

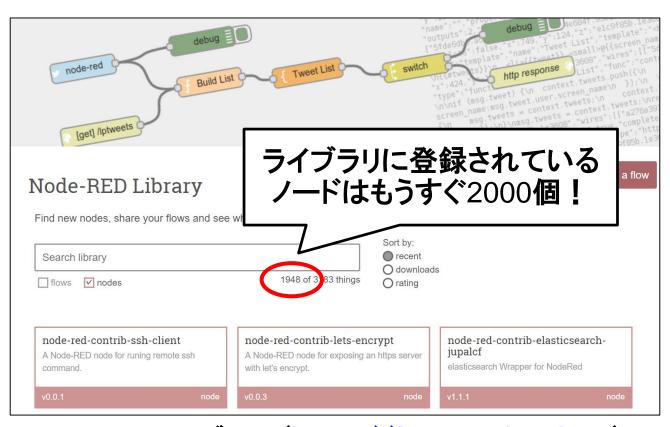


最後に





- オリジナルノードを公開し、Node-REDコミュニティを盛り上げましょう
- ノード開発のサポートが必要な場合は、Node-RED公式Slackの #nodegenチャンネルにご質問をお願いします(日本語可)



フローライブラリ (https://flows.nodered.org)



END

Node-REDのノード開発ハンズオン

2019/04/22 日立製作所 中央研究所

横井 一仁

HITACHI Inspire the Next

商標について



- IBMは、International Business Machines Corporationの登録商標です。
- Googleは、Google LLCの登録商標です。
- Xcodeは、Apple Inc.の登録商標です。
- GitHubは、GitHub Incorporatedの登録商標です。
- npmは、npm Incorporatedの登録商標です。
- Slackは、Slack Technologies Inc.の登録商標です。